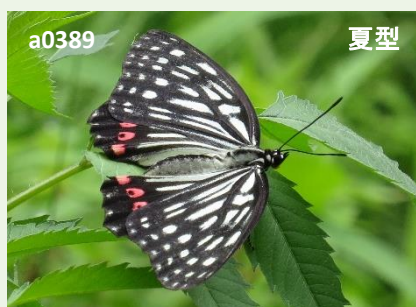


## 分布拡大中の特定外来生物 : アカボシゴマダラ

近年、千葉県内では特定外来生物のアカボシゴマダラが急速に分布を拡大させています。アカボシゴマダラは餌の競合（エノキ等の資源競争）や繁殖阻害（繁殖干渉と呼ばれる）によって在来の近縁種のゴマダラチョウを駆逐してしまうことが懸念されています。今号では、団員から報告のあったアカボシゴマダラの分布情報を整理し、県内での分布拡大状況や今後の生息状況把握を行う上での課題を紹介します。写真左上は撮影者の団員番号です。

### アカボシゴマダラ *Hestina assimilis assimilis*

#### 特定外来生物



日本には、奄美大島とその周辺に固有の亜種 (*Hestina assimilis shirakii*) が生息していますが、日本各地で分布を拡大させているのは中国大陸を原産とする外来の亜種と考えられています。夏型は後翅に赤斑が見られるため、在来種のゴマダラチョウと区別できます。



春型は全体的に白地が広がり(黒地が狭い)、夏型とは別種を思わせるほどに異なる見ただ目をしてしています。在来種のゴマダラチョウとは黒色部が少ないことから容易に区別できます。なお、生き物報告に投稿される際は写真の添付をお願いします。

### ゴマダラチョウ *Hestina persimilis*

#### 在来種



翅には黒地が広がり、後翅に赤斑がないことから、アカボシゴマダラの夏型と区別できます。幼虫期に食草(エノキなど)を巡った資源競争や、成虫期には繁殖干渉を受けることで、ゴマダラチョウからアカボシゴマダラへと置き換わるのが懸念されています。

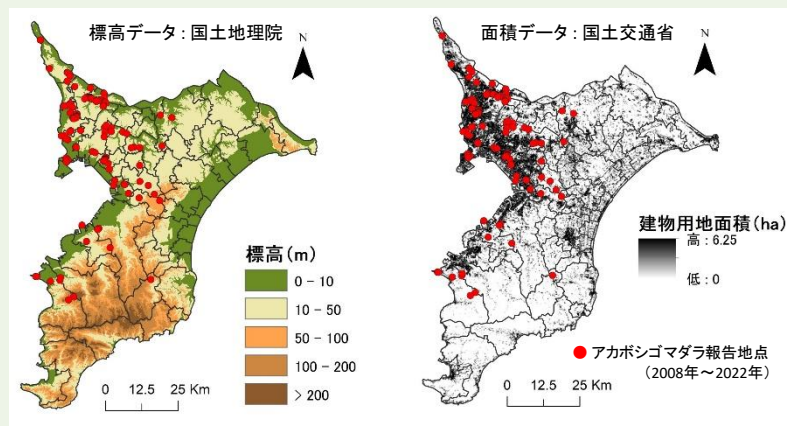


図. アカボシゴマダラの報告地点と標高、建物用地面積との関連

もし、アカボシゴマダラを見かけた際は、是非とも生き物報告までご投稿ください。団員のみならずで丸となって、千葉県内に定着したアカボシゴマダラの生息状況を明らかにしていきましょう！

2008年から2022年までに報告された分布データをもとに地図化してみたところ、アカボシゴマダラは県内全域へとまんべんなく分布拡大しているのではなく、ある程度まとまりを持って分布拡大していることがわかりました。特に、県北西部に分布が集中しています。そこで、分布に影響すると思われる標高や建物用地面積(黒いほど市街地率が高い)等の地図に分布地点を重ねてみたところ、アカボシゴマダラは低地や市街地を中心に分布を拡大させていることが見えてきました。

では、報告がほとんどない県東部や標高の高い県南部は生息に不適な環境なのでしょうか。それとも、実際には生息しているけれども、分布データがないだけなのでしょうか。

この疑問に答えるためには、上記分布図の空白地帯でも調査を行う必要があります。幸いなことに、生命のにぎわい調査団には、県内全域に団員がいますので、今後、より詳細にアカボシゴマダラの侵入状況が見えてくることでしょう。皆様の発見報告をお待ちしています。

# 古典文学と里山の生き物たちの世界



## 第二十回 ネジバナ

*Spiranthes sinensis* var. *amoena* ラン科

詩人 大島 健夫

日本の古典文学には、様々な生き物たちが様々な形で登場します。かつてこの国の人々はどのように生き物とかかわり、その姿に何をしていたのでしょうか。この連載では、生物多様性センターに勤務している、ポエトリー・スラム W 杯日本代表詩人の大島健夫が、<sup>いのち</sup>生命のにぎわい調査団の皆様を過去の世界にご案内します。

ネジバナは、もっとも身近な野生ランと言えるでしょう。日当たりの良い草地に、<sup>らせん</sup>螺旋を描きながら淡紅色の花をつけるその姿はとても可憐なものです。ネジバナは、市街地の道端などにも普通に生育しているのであまり有難みがありませんが、もしこれが深山幽谷にほんの少ししか見られない希少種だったら、誰もが憧れるであろう美しい植物です。

ネジバナの古名を「もじずり」といいます。その由来は、「<sup>もじずり</sup>振摺」という、捻じれた模様が特徴的な染め物にフォルムが似ていることにあると考えられています。「もじずり」が出てくるもっとも有名な和歌は、私たちが人生で一度は触れたことがあるであろう、『小倉百人一首』にも採られている、<sup>かわらのさだいじん</sup>河原左大臣の、

<sup>みちのく</sup>陸奥の <sup>たれ</sup>しのぶもぢずり誰ゆえに 乱れそめにし 我ならなくに

という歌でしょう。

しのぶもじずりは、<sup>むつづくに</sup>陸奥国、現在の福島県信夫地方の名産でした。私の心はそのしのぶもじずりの、こんがらがった染め模様のように乱れてしまっているぞ、誰のせいだと思っているんだ、全部あなたのせいなんだぞ、という恋の歌です。



画 齋藤倫瑠

この歌は元来、『古今和歌集』に収録されていたもので、作者の河原左大臣というのは、本名を<sup>みなもとのおとる</sup>源 融といい、京都の東六条に<sup>かわらいん</sup>河原院という豪邸を建てて住んでいました。もともとは嵯峨天皇の第十二皇子で、<sup>さが</sup>臣籍降下といって皇室から外れ、臣下の身分になって源の姓を賜りました。『源氏物語』の光源氏のモデルとも噂されるスーパーお金持ちです。どれだけお金持ちだったかという、宇治の平等院の土地は、そもそもこの人の別荘だったというくらいです。

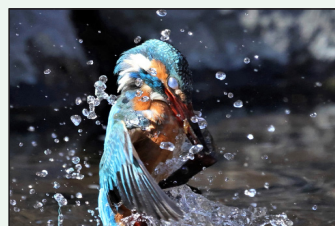
そして、光源氏のモデル候補に挙がるだけあって、ただのお金持ちだけでなくプレイボーイとしても有名でした。この「陸奥の……」の歌も、もらったラブレターへの返事として書かれたと言われています。ネジバナを見ては彼を思い浮かべる女性もいたのかもしれませんが。

### <これからの季節に観察できる生きもの>

- 調査対象種: ヒガシニホントカゲ、カワセミ、キジ、サワガニ、キンランなど
  - 調査対象種以外
    - \* 渡りのヒタキ類、サシバなどの猛禽類
    - \* 各種昆虫、両生類、爬虫類など
    - \* 希少生物(生息地・生息数が減少している生物)、外来生物の報告も受け付けています。
- 調査対象種以外は種の確認が難しいため、できるだけ写真の添付をお願いします。

### <令和4年度 生命のにぎわい写真コンテスト結果報告>

団員の皆様の応募作品 36 点から**最優秀賞**と**優秀賞**が決定しました。



「最優秀賞」 a1331

「エイリアン…? 浮上!」



「優秀賞」 a0892

「ダイサギ家族」